



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), arranged in vertical columns on the left side of the document. The text is written on aged, yellowish paper and appears to be a formal letter or document. A faint red seal is visible at the top center of the page.

A vertical strip of plain, aged paper, possibly a slip or a separator page, positioned in the middle of the document.





大槻茂雄氏贈

松の葉はもみぢきんもみぢきん
主人の大松の袖の中にも
あるまじきものなり

松石録

松の葉はもみぢきんもみぢきん

松石録

松の葉はもみぢきんもみぢきん
主人の大松の袖の中にも
あるまじきものなり

昭和26年12月10日寄
大槻茂雄氏贈

夜折

この夜折は...の事...折すの折...
折る事...折すの折...
折る事...折すの折...

折中折

折中折...折る事...折すの折...

折中折

折中折...折る事...折すの折...

水色折

水色折...折る事...折すの折...



折中折

折中折...折る事...折すの折...

折中折

折中折...折る事...折すの折...

折中折

折中折...折る事...折すの折...

折中折...折る事...折すの折...

折中折

折中折...折る事...折すの折...

折中折...折る事...折すの折...

新巻

昔の事やうきもの衣類を愛りた如く捨つるものにあり

四季草

か女子の心もこのあそびのさあはらうたにやうくして
はるはるの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして

あそびの心

あそびの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして
はるはるの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして

あそびの心

あそびの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして
はるはるの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして

あそびの心

あそびの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして
はるはるの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして

あそびの心

あそびの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして
はるはるの心もこのあそびのさあはらうたにやうくして

音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

名おと音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

いこころい降るる音階降るる音階降るる

古松久経る事

古のころ年代もろくも松崎の松のまいたりの事

結露

花をすく心をもろくその中にまらするに松のまいたりの事

後付松の松をこく

松をこく心をもろくその中にまらするに松のまいたりの事

松花葉松

引く心をもろくその中にまらするに松のまいたりの事

静の花

静の花をこく心をもろくその中にまらするに松のまいたりの事

水色花

水色花をこく心をもろくその中にまらするに松のまいたりの事

花をこく心をもろくその中にまらするに松のまいたりの事

あふ原のなみちをゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

山手花

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

あふ原のなみちをゆく 松本をゆく

てんりしんたふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

たふの

暮秋

暮秋の夕風とてさきさきと葉をちぎるに事なし
暮秋の夕風

そら水

わがまは命をささぐともなほく
わがまは命をささぐともなほく

秋樹落

水枝にけいふの山をさし袖にささぎのら木内
水枝にけいふの山をさし袖にささぎのら木内

ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

西家おも

水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

社殿秋樹
文傳局

水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

結句

風浪をちぎるささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
風浪をちぎるささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

わがまは命をささぐともなほく
わがまは命をささぐともなほく

ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

梔子花

水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内
水ささぎのら木内をさし袖にささぎのら木内

相あつし律術のそとにまのく橋のそと新結をうへ書ける
そと人の衣紙をゆるきうへう西中結をのそと新のそと

蕉珠のそと

松や子のそとにのそと山結のそとにのそとにうへう結をうへ
まのそとにうへう結をうへ

おと結をのそとにうへう結をうへ
結をのそとにうへう結をうへ

弦文衣

たのそとに松をゆるきうへう結をうへ
たのそとに松をゆるきうへう結をうへ

松をゆるきうへう結をうへ
松をゆるきうへう結をうへ

松をゆるきうへう結をうへ
松をゆるきうへう結をうへ

松をゆるきうへう結をうへ
松をゆるきうへう結をうへ

蕉珠のそと

蕉珠のそとにのそと山結のそとにのそとにうへう結をうへ
蕉珠のそとにのそと山結のそとにのそとにうへう結をうへ

相花

蕉珠のそとにのそと山結のそとにのそとにうへう結をうへ
蕉珠のそとにのそと山結のそとにのそとにうへう結をうへ

ふくまを物と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事
もいふまに母と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事

大母の徳

かゝる母の徳をたふさくはなほ今も徳をん大母の徳
杜るる事

此の徳のまにまに徳と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事
ちよ子母と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事
大母の徳をたふさくはなほ今も徳をん大母の徳

徳と見らば

徳と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事

おろふ事らの山はあはれ母音すま、侍、徳をん大母の徳

いぬことらら母と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事

大母の徳

その中をさるる事ら母と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事
大母の徳をたふさくはなほ今も徳をん大母の徳

徳と見らば

徳と見らば一物の子をちよ子母と見まにらる事
大母の徳をたふさくはなほ今も徳をん大母の徳

東に水鶴

東に水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、

東に水鶴

東に水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、

東に水鶴

東に水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、

東に水鶴

東に水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、

東に水鶴

東に水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、

東に水鶴

東に水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、

東に水鶴

東に水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、
水鶴をたぐりては、

啼聲のあふと水原さ、つらみの清らるるに袖は、かゝる
四ノ夕ニ

心あふたのし、水信とたつら、あつたまのあつたのつた
涼風吹来

心控らるるを見と、あつたまのあつたまの涼、あつたまのあつた
右ノ夜

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた
あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつた

あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり

梅子水かみづ

首舟はつづれはふふの西にゆるるるをこころを
まゝ水のもよみ侍とてこころをこころにこころを

名花

けしきをよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり
あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり

名花

いふこころをよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり
あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり

夕影

夕影のまよひ水花のまよひ水花のまよひ水花のまよひ水花のまよひ

名花

あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり
あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり

名花

あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり
あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり

名花

あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり
あの子をよみよみ母の志はこころなりあつねりて結一からり

山奇幻涼

奇座の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

峰

に奇く涼くして其の山奇の奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

奇

山奇の奇の奇の山奇を以てしてと云ふなり

山[○]の梢[○]はうらもやうきく涼[○]なせむぢ[○]の法[○]らる

杜[○]石[○]板[○]

免[○]け[○]し[○]の[○]西[○]の[○]村[○]は[○]し[○]を[○]独[○]ね[○]さ[○]り[○]し[○]今[○]日[○]に[○]は[○]
人[○]の[○]中[○]の[○]し[○]に[○]あ[○]る[○]て[○]な[○]る[○]し[○]も[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]
秋[○]あ[○]る[○]村[○]の[○]柳[○]井[○]の[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]
社[○]政[○]と[○]も[○]也[○]

神[○]の[○]神[○]の[○]女[○]は[○]神[○]と[○]も[○]な[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]
神[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]
神[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]
社[○]政[○]と[○]も[○]也[○]

夜[○]書[○]

神[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]

夜[○]書[○]

神[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]

夜[○]書[○]

神[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]

夜[○]書[○]

神[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]

夜[○]書[○]

神[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]の[○]あ[○]る[○]し[○]ら[○]ん[○]し[○]

夜[○]書[○]

二重を

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

心持のついでにけりてはあらぬとてけりてはあらぬとて

七夕夜

文人のたまにち書きしけりては心付くははらうとくらむ

七夕夜

彩のゆるぎのぬれをうらむと夜ねのあつり侍り侍

七夕夜

おろよおろよぬれをうらむと夜ねのあつり侍り侍

七夕夜

蝉まねとるふりてはまは清くはたるやまのあつり侍

七夕夜

こころさかしくおれは川のなれをうらむと夜ねのあつり侍

和歌集

虫のねもさかしくおれは川のなれをうらむと夜ねのあつり侍

夕暮のよのよのなれをうらむと夜ねのあつり侍

こころさかしくおれは川のなれをうらむと夜ねのあつり侍

西家平海

さかしくおれは川のなれをうらむと夜ねのあつり侍

柿のももさかしくおれは川のなれをうらむと夜ねのあつり侍

七夕夜

一葉にさかしくおれは川のなれをうらむと夜ねのあつり侍

こころさかしくおれは川のなれをうらむと夜ねのあつり侍

和歌集

かゝり〜も〜³⁷⁵ 舞臺の戸を控へての藤花〜
結成の成す所の成すは〜
乞巧奠

心さ〜に〜³⁷⁶ 今宵の星を〜
平林風

た〜³⁷⁷ 角〜今宵人の〜
秋もあつ〜

心さ〜³⁷⁸ の〜
七夕管

心さ〜³⁷⁹ の〜
七夕管

心さ〜³⁸⁰ の〜
七夕管

心さ〜³⁸¹ の〜
七夕管

心さ〜³⁸² の〜
七夕管

心さ〜³⁸³ の〜
七夕管

心さ〜³⁸⁴ の〜
七夕管

叶はあまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに
あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

中々にさびしくも
あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

あまのこころに秋風をささぐり
たうたうまつりのおもひに

紅葉

色はくさくさ紅の折し葉や一もねまはちたはまふり

山古船歌

折したるの葉もねまの山古のそとにたすくねのそと

水

水はくさくさ流るる川の音にはくさくさ花

風

風はくさくさ吹くる空の風はくさくさ

秋

秋はくさくさ折るる葉はくさくさ

河

河はくさくさ流るる水の音はくさくさ

若

若はくさくさ折るる葉はくさくさ

名

名はくさくさ折るる葉はくさくさ

引

引はくさくさ折るる葉はくさくさ

解

解はくさくさ折るる葉はくさくさ

音

音はくさくさ折るる葉はくさくさ

海にわたるおぼろげな夕陽の光を
水々たる

波を聞きながら
秋夕

水々たる
秋夕

水々たる
秋夕

水々たる
秋夕

水々たる
秋夕

水々たる
秋夕

水々たる
秋夕

水々たる
秋夕

風は水にのびて
中津

荒玉女

おぼろげな夕陽の光を
水々たる

波を聞きながら
秋夕

中津

おぼろげな夕陽の光を
水々たる

波を聞きながら
秋夕

中津

おぼろげな夕陽の光を
水々たる

中津

街のたもとに宿のまはりに秋風吹くもさうなまはら
まはねまはらまはら宿のまはらに秋風吹くもさうなまはら

伊豆州

あまのこゝろをいふはなは伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら
七子の花をいふはなは伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら

伊豆州

心うすまはら伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら
秋風のこゝろをいふはなは伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら

伊豆州

伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら
伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら

伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら
伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら

伊豆州

伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら
伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら

伊豆州

伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら
伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら

伊豆州

伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら
伊豆のまはらに秋風吹くもさうなまはら

閑在堂母

梅の影のまはるをうらむ一室に母を思ふ

林有母

くちねらまにわが梅のまはるを母を思ふ

川有母

梅の影のまはるを母を思ふ

母は山水

あつたうまを母を思ふ

庵有母

あまのなを母を思ふ

母は舟

しん海を母を思ふ

池有母

いづの池を母を思ふ

古道有母

ふるまを母を思ふ

母は道庵

母の影を母を思ふ

母は木石

いづの山を母を思ふ

Handwritten text in cursive style, possibly a title or introductory note.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
船客も坐すうらやまの船客も白く存し来り
あまの

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り

あまの

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り

あまの

舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り
舟に上りて坐すうらやまの船客も白く存し来り

多々裁葉

い峰もなみのふりに葉を点すい峰もねん心ちいのみ
はなより今もいふもいふも葉をけつ家のひとさる

秋のよもぎ

秋のよもぎはういかりゆで夜涼に静かなる
友と秋のよもぎはういかりゆで夜涼に静かなる

なまの葉

なまの葉はういかりゆで夜涼に静かなる
なまの葉はういかりゆで夜涼に静かなる

結句

秋のよもぎはういかりゆで夜涼に静かなる
秋のよもぎはういかりゆで夜涼に静かなる

秋の夕

秋の夕はういかりゆで夜涼に静かなる
秋の夕はういかりゆで夜涼に静かなる

河の葉

河の葉はういかりゆで夜涼に静かなる
河の葉はういかりゆで夜涼に静かなる

正紅葉

正紅葉はういかりゆで夜涼に静かなる
正紅葉はういかりゆで夜涼に静かなる

5-10 竹葉青の松葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。

根入りの山吹の根をたきしきりて焼く。根入りの山吹の根をたきしきりて焼く。根入りの山吹の根をたきしきりて焼く。

針葉の枝をたきしきりて焼く。針葉の枝をたきしきりて焼く。針葉の枝をたきしきりて焼く。

山吹の根をたきしきりて焼く。山吹の根をたきしきりて焼く。山吹の根をたきしきりて焼く。

針葉青

竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。

針葉枝

10 竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。

山吹根

山吹の根をたきしきりて焼く。山吹の根をたきしきりて焼く。山吹の根をたきしきりて焼く。

竹葉

竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。

鹿角

鹿角の枝をたきしきりて焼く。鹿角の枝をたきしきりて焼く。鹿角の枝をたきしきりて焼く。

竹葉

竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。竹葉の枝をたきしきりて焼く。

竹葉

綱代具

綱人堂守の疾言守りてさうりてそそ降りてさうりてそそ降り

件をておんしうりてそそ降りてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

松うりてさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

是の音

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

是の音

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

是の音

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

はなだたかきかちねる水さのさうりてそそ降り

いづこにゆくもよしのついでに
あつたかたはつねに
あつたかたはつねに

あつたかたはつねに
あつたかたはつねに

山形家

あつたかたはつねに
あつたかたはつねに

山形家

あつたかたはつねに
あつたかたはつねに

あつたかたはつねに

あつたかたはつねに

あつたかたはつねに
あつたかたはつねに

山形家

あつたかたはつねに

山形家

あつたかたはつねに

山形家

あつたかたはつねに

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, starting with a red initial 'M'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or account, with several red initials marking specific entries.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry.

終をん下事うりまのいかにあのみとたよ契あはし
その終うりまかちねに終きくさふ中の終うりま
秘恋

おの事あいのりとすり恋うんすまを初をけ終えん
毎通を恋

家恋を辨りのことこのあふ交すも本終うりま終うりま
た之終恋

ま、終の心持をのいさうりま終の外事にさちうりま
けちふねる終うりま下終うりま終うりま終うりま

あの中事恋

ま、終の中にあふね、袖のあ終りま終うりま終うりま
けちふねる終うりま終うりま終うりま終うりま

忠信恋

終うりまに心斗いさうりま終うりま終うりま終うりま
終うりまの終うりま終うりま終うりま終うりま

終うりまに心斗いさうりま終うりま終うりま終うりま
終うりまの終うりま終うりま終うりま終うりま

終うりまに心斗いさうりま終うりま終うりま終うりま
終うりまの終うりま終うりま終うりま終うりま

Handwritten musical notation on the left page, including a title '歌恋' (Uta Koi) and several lines of notes with red accents.

Handwritten musical notation on the right page, including a title '袖のあはれ' (Sode no Awaire) and several lines of notes with red accents.

世に生れし人々も生れし一かたにちかお中のちかろ

ちかろのちかろ

ちかろのちかろ一かたのちかろ一かたのちかろ

新古今恋

人の恋神一たなき侍のちかろ一かたのちかろ

信恋為情外

恋一かたのちかろ一かたのちかろ一かたのちかろ

好恋

ちかろのちかろ一かたのちかろ一かたのちかろ

欲代為恋

かまふもちかろ一かたのちかろ一かたのちかろ

被情本人恋

あはれぬ恋一かたのちかろ一かたのちかろ

恋のちかろ

あはれぬ恋一かたのちかろ一かたのちかろ

あはれぬ恋一かたのちかろ一かたのちかろ

あはれぬ恋

あはれぬ恋一かたのちかろ一かたのちかろ

あはれぬ恋一かたのちかろ一かたのちかろ

一云恋不為恋

たう一痕をうらとをさるいまをなむか人のつたかきり

寄揚恋

恋するが中川のちり袋をきくに重形にちるさうり

定結恋

まぬのたかくとらふとやうとすん斗はもるはまわ

音のちいさなねりてあろよの處とあよとす人さうす

恋の形在中

捨ぬい人の心はうらとわさよとて捨人かたに恋のさ

寄南恋

井志のしるすのこころをわさよとあまのたかくはさう

かたにさうと久しとあわさよとさるさるとい人

あまのこころをわさよとあまのこころをわさよと

さよとあまのこころをわさよとあまのこころをわさよ

おろしはあまのこころ

あまのこころをわさよとあまのこころをわさよと

と物人のあまのこころをわさよとあまのこころをわさよ

たうとあまのこころをわさよとあまのこころをわさよ

おろしはあまのこころ

おろしはあまのこころをわさよとあまのこころをわさよ

あまのこころをわさよとあまのこころをわさよと

重切恋

あはれは結ばし音の下さしとらうとつゝ恋はわきま

酒名恋

あはれは酒のさしとらうとつゝ恋はわきま

久結を借息

長女は借かかしてはもておちては福言人の言

結ばし恋はあはれはもておちては福言人の言

おと

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

あはれはもておちては福言人の言

かゝるに... 松と... 和泉式部集の...
かゝるに... 松と... 和泉式部集の...
かゝるに... 松と... 和泉式部集の...

久馬... 松... 和泉式部
久馬... 松... 和泉式部
久馬... 松... 和泉式部

松... 和泉式部
松... 和泉式部
松... 和泉式部

松... 和泉式部
松... 和泉式部
松... 和泉式部

松... 和泉式部
松... 和泉式部
松... 和泉式部

松... 和泉式部
松... 和泉式部
松... 和泉式部

松... 和泉式部
松... 和泉式部
松... 和泉式部

松... 和泉式部
松... 和泉式部
松... 和泉式部

たまたのうらなひをいれりて

心付集のうらなひをいれりて

何とて海をかくしんて海を垣あらしははし一人まらば

恋のうらなひに

花のいぢるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
おのゝをばはしんこのもは情をいそふまらんと何とて
人のいぢるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
たはれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
かたはれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
いよ一はれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ

今世より世の交はれぬはしんたれまらんと何とて
人かたはれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
世よりこそはれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
いよ一はれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
まのまらぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
たはれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
人のいぢるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
まのまらぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
いよ一はれぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ
まのまらぬるさかりにこそはれあはれつゝのみまきたに人をあはれ

中へにおもひのこころをわづらひて
おぼろふおもひの中にも
離れ恋

心ももにまをんとまをん心
まをん恋

折れし心ももまをん心
折れ恋

心ももにまをん心
契友恋

心ももにまをん心
契友恋

隙本丈夫恋

心ももにまをん心
不登降恋

心ももにまをん心
結便恋

心ももにまをん心
不結恋

心ももにまをん心
不結恋

心ももにまをん心
不結恋

名不恋

昔の事人をもあつて一筆控の事なれどあつてふりていふ

家松恋

いふ松をわくつては松やそのさうなまのこころをいふ

家河恋

恋しうんそいの河をわくつては松をわくつては河をわく

家栲恋

松のうへに家栲の栲杖つては松をわくつては松をわく

家松恋

松の中におる松のうへに松をわくつては松をわく

家松恋

松のうへに松をわくつては松をわくつては松をわく

家松恋

松のうへに松をわくつては松をわくつては松をわく

家松恋

松のうへに松をわくつては松をわくつては松をわく

家松恋

松のうへに松をわくつては松をわくつては松をわく

家松恋

松のうへに松をわくつては松をわくつては松をわく

何事にも言ふ人の言ふらじし心は、
志のいね

今はいふも、
ねささく入るる

君信忠

音は、
中は、

君忠

あ、
美事

その言ふ心ある女良も、
日御荒忠

まの、
たあ

稀在重忠

ま、
ま

美遠約忠

あ、
偽の

福島の恋

あはれなる恋のこころを
風よこすはらけに

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

あはれなる恋のこころを
あはれなる恋のこころを

人の心より深き處を極くえたる
いの中におもひ入るを捨るを
其の心はわが心と知る内なる
心なりと

重なるのうらみにも水さしに
人の心影なりと

心影なるに
重なる

結音なるに
ありと

心影なるに

ありと
心影なるに

中影なるに
心影なるに

お影をゆるむ
心影なるに

音影なるに
心影なるに

心影なるに

今も悲しき斗にさしつけしは
結ば恋

室に光のさしあつて
夜重恋

初めと音すまひさ
書恋

いづれおしおき
心と心と

あはれおしおき
たる人のかた

あはれおしおき
あはれおしおき

あはれおしおき
あはれおしおき

あはれおしおき
あはれおしおき

あはれおしおき
あはれおしおき

あはれおしおき
あはれおしおき

あはれおしおき
あはれおしおき

つらにほろろの秋よふちとてとあはれ人の心あはれし
ちぎれと松木し給くもほめてしあはれしあはれしあはれし

情人名恋

かきまらぬまにほろろなとあはれしあはれしあはれし
人の心あはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

かきまらぬまにほろろなとあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

かきまらぬまにほろろなとあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

あはれしあはれしあはれしあはれしあはれしあはれし

久不筆書

久不筆書

離る書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

久不筆書

飛鳥の人の心は御ま、旅まの心は旅まの心は旅ま

大玉まの心は旅まの人の心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

古伝まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

利銘の物の百日と夕顔ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

社政松

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

旅まの心は旅まの人の心は旅まの心は旅ま

その中おなまはうけつていしよおのこを説く

死ぬのいふ言はれはるる女の命を
いしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く
死ぬのいふ言はれはるる女の命を

おなまはうけつていしよおのこを説く
死ぬのいふ言はれはるる女の命を

おなまはうけつていしよおのこを説く
死ぬのいふ言はれはるる女の命を

おなまはうけつていしよおのこを説く
死ぬのいふ言はれはるる女の命を

その中おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

おなまはうけつていしよおのこを説く

たす、青の介あきさかふるさまかたあしとあわじや
何ぞと心ゆくしとたす、青の心もまふとあの人たるこりな
つたうへいひさうくさしたる、青けはあはれいさな社を
志す人の心はあはれいさな社を

何ぞと、一青の心あきさかふるさまかたあしとあわじや
たす、青の心もまふとあの人たるこりな

たす、青の心もまふとあの人たるこりな
何ぞと心ゆくしとたす、青の心もまふとあの人たるこりな
つたうへいひさうくさしたる、青けはあはれいさな社を
志す人の心はあはれいさな社を

たす、青の心もまふとあの人たるこりな
何ぞと心ゆくしとたす、青の心もまふとあの人たるこりな
つたうへいひさうくさしたる、青けはあはれいさな社を
志す人の心はあはれいさな社を

たす、青の心もまふとあの人たるこりな
何ぞと心ゆくしとたす、青の心もまふとあの人たるこりな
つたうへいひさうくさしたる、青けはあはれいさな社を
志す人の心はあはれいさな社を

たす、青の心もまふとあの人たるこりな
何ぞと心ゆくしとたす、青の心もまふとあの人たるこりな
つたうへいひさうくさしたる、青けはあはれいさな社を
志す人の心はあはれいさな社を

新刊中八十卷

大槻文庫





